

巻之六

第十章：自国の独立を論ず

P277 今の日本の困難（病）の源泉は、「外国交際」にある。

P263 「昔、鎖国時代には、人民はそもそも西洋諸国というものを知らなかったけれども、今ではすでに外国
03-8 があることや、その文明の有様を知っているし、その文明がわが国とは差があることも、文明が遅
れている者は先立つ者に制せられることを知っている。そのとき、まず人民の心に感じるものは、自国
の独立いかんの一事にあらざるをえないはずだ。」

P264 わが国の文明は、今まさに、自国の独立について考えるべき段階にある。

P266 ところが、識者が改革に手を着け、文明化を進めている一方で、人民は従来の封建的抑圧という重荷から解放され、いまだ代わりの荷物を背負わずに、休息している。全く仕事がなければ、休息するのもも
-268 っともなことだけれども、今わが国の有様を見れば、決して無事ではない。それどころか、以前にも増
P276 してさらに困難になっている時節である。世の中の識者も決して休息してはいけないことを知って、ど
うにかして民心を維持してその向かうところを1つにし、そうしてわが国の独立を保とうとして、それ
ぞれ力を尽くして試みるけれども、今日に至るまで一つも功を奏したものはなく、また今後をみても、
功を奏すだろうものはない。人民の様子を見ると、その学業は忙しくないわけではないだろうけれども、
私有も生命をもなげうつべき場所と決心している大切な覚悟は忘れ、とくに心に関心があるものもな
く、安楽世界に生きている。

課題は、人民の休息からの覚醒。福沢は、人民の自己変革として、人民が新たな公の課題を背
負いうる国民になることを期待している。

P291 よく見聞を広くして、世界の歴史の事実を観察しなければならない。白人に支配されたアメリカ、ペル
シャ、インド、シャム、ルソン、ジャワ……これらの歴史的事実を明らかにして、日本も東洋の一國で
あることを知ったならば、たとえ今日に至るまでは害を被ることがなかったといっても、今後の禍は恐
れずにはいられないだろう。

P294 この外国交際という病は、わが国の一大難病であって、これを治すにあたって、自国の人民以外には頼
れるものはない。その任務は大きく、その責任は重い。人民は、気楽に日々を消費し、無為に休息せず、
智恵と徳義の働きを活発にし、一片の本心で、私有をも生命をもこの外国交際になげうつべきである。
国民は毎朝、「外国交際に油断してはいけない」とお互いを戒めてから朝食についたっていいくらいだ。

P297 人心を維持するためには、目的を定めて、文明に進むという一事にあるだけ。その目的とは、内外の区
別を明らかにして、日本の独立を保つことである。

■利己に走る人々に国の危機を感じた、他の学者の主張

P268

1.皇学（尊王、国体論）

天皇を中心として人民が心情的に結合し、天皇国家を形成したらどうか、という主張。

◆福沢の意見：今の人々の人心と文明の有様においては、ほとんど不可能なことであろう。人民と王室との間にあるものは、ただ政治上の関係だけである。君主を尊敬することは結構なことだが、懐古の情ではなく、政治上の得失から議論しなければならない。また、親しみの情は、すぐに造れるものではない。強いてこれを造ろうとすれば、かえって偽君子の類が生まれ、ますます人情を軽薄に導くこともある。だから、皇学者の国体論は、人心を維持してその品行を高尚の域に導くには足りないものである。

P271

2.キリスト教の導入

今の人民はみな向かうところが違うので、まずはキリスト教を取り入れ、民の方向をひとつに、つまり人類のまさによりどころにすべき大目的を定めようという主張。そのうえでこれを政治に施せば、一国独立の基礎にもなるだろうという趣旨。

◆福沢の意見：宗教によって人心を教化し、人倫を正し、社会道徳を確立するという議論自体は間違っていないが、これを政治上にも及ぼすことには異論あり。人民同士の交わりと、国同士の交わりは違う。国際関係は、商売と戦争という、二か条から成る世界である。戦争は独立国の権義を伸ばし、貿易は自国の民を富ます。この二つを通じて、自国の智徳を修め、自国の名誉を輝かそうとして勉強する心を「報国心」という。その心は、他国を害するわけではないけれども、自他の差別をつくり、自国は自国として自ら独立しようとする心であり、この大義とキリスト教の大義は、互いに相容れない。宗教は一身の私徳に関係するだけで、建国独立の精神とはその赴く所を異にするものである。たとえこの教えで人民の心を維持することができても、その人民と共に国を守るということに関しては、大して機能はないだろう。

（補）

■外国交際の問題——人権の問題

西洋人は、「人民同権」を説くが、その事実を見れば、「私と貿易しない者は殺す」と言っているようなものである。本来ならば、貧富強弱に関わらず、国同士の権義は同一であるべきだ。しかし、この不公平に憂える人も少ない。なぜか。

- ①人民同権の説を唱える人は、権力によって苦しめられた人ではなく、権力を握って人を苦しめていた人だから、その主張に切実さが無い。けれども、今の外国人の狡猾なきおとは、公卿や幕府の役人の比ではない。たとえば、イギリス人がインドを支配したことを見ればわかる。P287
- ②開国してからまだ日が浅いので、たとえ不平を抱く人がいても、たいてい皆、港付近の人民だけにとどまって、世間一般の風聞に伝わっていない。政治上に関わる交際のこと、全部政府がやっていて、人民はこれを知らず、学者や役人であっても、その事に関わっていない人は、これを知る手がかりもない。これを知らない者は、これを憂える理由もないのである。P290

■外国交際の性質

外国人が日本に来ているのは、貿易をするためである。西洋では、文明が次第に進んで、人口が増加したので、それを賄うだけの資源や資本を得るために、外国に来ている。西洋は物を作る国で、日本は物を産出する国である。経済の道において、一国の貧富は、智力を用いる多少と巧拙による。